

【学芸員お薦めの一品】

## 国際交流展「<sup>うみやま</sup>海山に宿る神々～<sup>さいし</sup>日韓の祭祀遺跡～」

2018（平成30）年10月6日～12月2日

企画展の開催期間中、週替わりでお薦めの展示品を紹介します。

### No.1 軽石の中から掘り出された縄文土器

都城市の<sup>いけのとも</sup>池ノ友遺跡で出土した縄文時代中期の<sup>ふかばちがたどき</sup>深鉢形土器です。霧島連山の<sup>みいけ</sup>御池は、約4,200年前に大規模な噴火を起こしましたが、遺跡の周辺には噴火に伴う<sup>きりしま</sup>霧島<sup>みいけかるいし</sup>御池軽石が厚く堆積しており、この土器は軽石に埋もれた状態で発見されました。

南九州では、火山噴火の痕跡が数多く確認されていますが、この土器のように噴火の瞬間に居合わせた人々の存在を直接的に示すような出土事例はほとんどなく、たいへん貴重な資料といえます。



深鉢形土器／池ノ友遺跡（都城市） 都城市教育委員会所蔵

※出土状況の写真は都城市教育委員会提供

【参考文献】 栗畑光博 2006 「池ノ友遺跡」『都城市史』資料編考古 都城市